

年月日 平日＝2012年02月09日（木・晴）＝17名  
休日＝2012年02月26日（日・晴）＝13名

回数 2010期・第21回、2011期・第9回

巡礼寺・順 第三十三番・正定寺（しょうじょうじ）

本尊・阿弥陀如来

山号 見海山

浄土宗・（増上寺（東京・芝）・末寺）

草創・1181年～82年（養和年間）

- ・安徳天皇の時代、創立当初は真言宗で、来迎庵といった、1428～87（正長・文明年間）臨濟宗、建長寺派に属す、1598（慶長三年）浄土宗に属し正定寺と称して今日に至る。
- ・境内に薬師如来石仏像・三十三観音石仏像を祭祀
- ・境内の一郭に、灯台かと思われる、真っ黒な仏像があります

第三十二番・善應院（ぜんのういん）

本尊・十一面観世音菩薩

山号 稲取山

曹洞宗・（永明寺・末寺）

草創・1441年（嘉吉元年）

- ・室町時代、鈴木三位大臣の子孫、鈴木孫七郎繁時により創立、稲昌山と言い真言宗でした。1616年（元和二年）繁時から七代の孫、鈴木助七郎繁元が永明寺（富士市）七世大室存道德化を受け曹洞宗に改宗山号も稲取山・善應院と改め今日に至る。
- ・稲取は昭和20年米軍の空襲で壊滅状態になりました。善應院も被害を受けましたが直撃は受けず本堂は大修理、庫裏は改築しました

\* 三十四番札所 三養院（さんよういん）

本尊・釈迦如来

山号 千手山 \* 曹洞宗（昌溪院・末寺）

草創・1501-21（文亀・永正年間）

- \* 菰山の昌溪院を開山した、竺仙宗僧が創立、千手庵と称していた創立年代は不明ですが竺仙宗僧は永正八年に、没しているため、それ以前の文亀年間（1501-04）か永正年間（1504-21）の間と推測される、創立当時は別の場所であったが、後年現在地に移された。
- \* 1590（天正十八年）下田城（現・下田公園）が豊臣秀吉の1万4千余の水軍に攻撃された、城主の清水上野介康英は妻と子の三人で逃れ、この千手庵に身を隠した三人を養いし故、三養院と寺号を改めたと云われる。
- \* 「八功德」扁額（水戸黄門の師で、関羽將軍の末裔の筆）や、塗り駕籠、

等が保存されている。

- \* 三十五番札所 栖足寺 (せいそくじ)
  - \* 本尊・釈迦如来
  - \* 山号 鳳儀山
  - \* 臨濟宗 (鎌倉、建長寺・末寺)
  - \* 草創・1319 (元応元年)
  - \* 河童の伝説があります
- \* 後醍醐天皇の時代、下総・佐倉の城主、千葉勝政の三子、徳瓊覚照の開山、1363 (正平十八年) 足利氏の兵乱により、全て焼失する、その後再建するも、1854 (安政元年) 再び焼失現在の本堂は 1886 (明治 19 年) 再建です。
- \* 寺に保管されてる「河童の瓶」その昔、河津川に住んでいた河童が捕らえられたのを栖足寺の住職が助けてやり、そのお礼にと置いていった瓶で、川のせせらぎの音が聞こえてくると、云われる。
  
- \* 三十六番札所 乗安寺 (じょうあんじ)
  - \* 本尊・十界曼荼羅
  - \* 山号 長運山
  - \* 日蓮宗 (身延山、久遠寺・末寺)
  - \* 草創・1596-1615 (慶長年間)
  - \* 伊豆八十八ヶ所霊場唯一の日蓮宗
- \* 縄地金山が採掘盛んな頃、縄地に身延山・久遠寺二十二世、日遠が創立した寺で後年、現在地に移された。
- \* 日遠が当時、徳川家康の居城であった、駿府城へ赴いた時、何が原因か家康の激怒を被り、斬罪に処せられる所を、家康の側室で日蓮宗の信者であった、お満の方の助命願いで許された。日遠はお満の方の生地、河津へ女駕籠で運ばれた。その駕籠が寺宝として保管されている。

距離 約 1 Km + 約 1 Km + 約 1.3 Km + 約 4 Km + 5 Km = 約 2.4 Km

タイム 稲取湾手前発 8 : 10 - 正定寺 8 : 40 - 善應院 9 : 10 - 峠越え - 沢田・涅槃堂 11 : 20 - 三養院 11 : 50 - バス - 桜公園 12 : 15 ~ 13 : 15 - バス - 三養院 - 桜公園 - 栖足寺 14 : 30 - 乗安寺 15 : 00 - 踊り子会館 - 下土狩

温泉 河津・踊り子会館 = 900 - (団体割引)

寺経費 善應院 = 駐車料金 1000 -

参考資料 「伊豆霊場振興会」HP

平日は稲取高校下から出発。難しい名前の神社の急な階段を辿り、稲取湾に下る。

港は左手から風が冷たい。徳造丸の店を通過し、正定寺着。

ここは灯台のような大きな仏様が境内を睥睨（へいげい）している。灯台なら海を向いていたほうが、いいと思いますが・・・。灯台に上る。港を一望できた。ただ、意外にも仏様はコンクリートでなく、プラスチックだった。



正定寺  
大仏



ババさま

正定寺は早朝だったが、ババさまは気持ちよく対応してくれた。本堂の天井は96書体の「寿」が書かれている。この寺は保育園を経営していた。朝、子供たちが何人かやって来た。ここから善應院に向かう。

善應院は近い。ここもいい感じのお寺で、今回であしかけ5年・3回目だが、いつも気持ちが良い。更に嬉しいことに、平日・休日とも住職と一緒に勤めを共にしてくれた。最近では、やってくれる寺は少ない。ゆっくりな般若心経だった。



善應院住職



善應院からR135をしばらく進む。ここから見高入谷に向かうが、入口にいつも寄るミカン屋がある。この主人もいい方で、いつも嫌な顔をせず歓待してくれる。今回も平日・休日ともデコポンをサッと出してくれた。

そうすると、皆さん買い物が進むから不思議なものである。「損をして徳をみる」(得

取れ) は、商売の極意でしょう・・・。

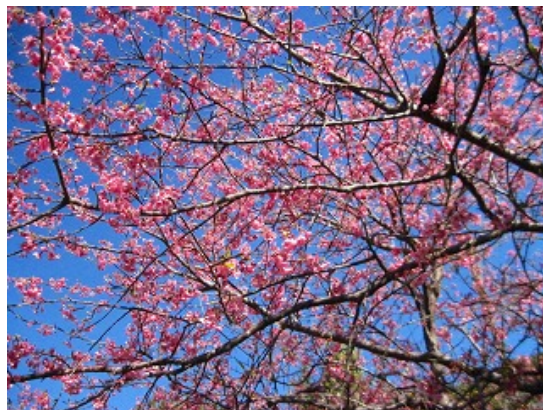


いつも優しいオジさん



ここから越える峠は古の街道で石仏が散見される。西国供養塔があったが、その昔、満願成就したのだろうか。それは壮絶な旅だっただろう。峠の標高は約150m。思ったほどきつくない。回りはミカン畑が続き、海が見え気持ちが良い巡礼路。

平日時は途中に1本だけ、河津桜が咲いていた。河津桜は過去2回、2月平日は丁度よく、休日は終わりだった。ところが、今年は河津川堤の桜は全く開花せず、お祭りを延期する騒ぎだった。



見高入谷の河津桜

峠を越えて沢田集落に降りる。下ったところは、伊豆横道(よこどう)十四番札所・小峯堂。ここで小休止後、沢田の涅槃像に寄る。平日時は下田の上原仏教美術館から仏像調査に来ていた。今年、2月15日は60年に一度の本開帳があるそうだ。行きたかったが、ちょうど富士山ウオークで駄目だった。

三養院までひと踏ん張り。ここからダラダラ上りが案外長い。



平日時、三養院の住職はいつも息子さんだが、珍しく父君がいた。息子さんは湯ヶ島の東司（お便所）で有名な、明德寺に手伝いに行っているとのこと。

平日はここからバスで桜公園に昼食に向かう。休日は、1時間早く出て来たので歩いて向かった。公園の桜は、平日・休日とも全く駄目だった。それでも休日時は人出で、ごった返していた。

平日は足湯を楽しんで、すぐ近くの栖足寺に向かう。この住職は初めて会った。意外と若い方だった。



足湯の見事な脚線美??!!

栖足寺住職



今日、最後の寺は、やっぱり近くの乗安寺。この寺は伊豆八十八札所、唯一の日蓮宗。本来、日蓮宗は般若心経を行わないが、住職は嫌な顔はしなかった。

終了後、平日班は「踊り子会館」で入浴。休日班は、帰りの車の混雑が予想され、入浴なしで15時前帰着する。予想通り、修善寺の出口付近は大渋滞だった。

これで2010期の方は、残すところ、あと2回となった。

2年は早いものだ。最後まで心穏やかに続けましょう。

合掌



平日班



休日班